

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100400		
法人名	有限会社 ライフ・ワーク		
事業所名	グループホーム音符		
所在地	秋田県秋田市土崎港北1丁目13-43		
自己評価作成日	平成29年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成29年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

音符の理念にもあるように、スタッフと入居者様とご家族様が笑顔で居られ、これまでと同じように生活の音や人の声・笑い声など穏やかであたたかい音に包まれた日々の生活を作りながら、心を通わせていきたいと思っています。出来るだけ自分で出来る事は続けていく、自立支援を柱にスタッフと一緒に生活していけるよう心掛けています。今年も秋田市のGH協会の作品展に向けて入居者様と一緒に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

60代の女性スタッフが作る食事は、入居者世代の好みの味で自慢できると自負する。当日、家族からハタハタの差し入れがあり、早速メニュー変更をし、今夜はハタハタ鍋とのこと。秋田市主催の防災訓練に入居者と共に参加し、地域住民から避難場所である高台の小学校まで、ブロック塀の倒れる危険性がなく、万が一倒れていても誰かが気づいて助けてくれる最も安全な避難路のアドバイスを受けることができた。入居者の歩行状態でも参加が可能かの是非を何度も検討した結果、小学校の3階までの避難経路を実現した事例である。認知症である本人に対する家族とスタッフの距離を縮めることや、地域の認知症に対する啓蒙も、ホームの大きな役割であることを常に自覚しており、マンネリに陥ることなく、常に地域におけるホームの役割を意識し続けているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をスタッフ全員で話し合ってきたり共有している。入居者様の現状に寄り添うケアを行なっている。	毎年スタッフ全員からホームの年度目標に取り上げたい内容を記載してもらい、管理者が取りまとめ次年度のホームの目標を作成し、ホーム内に大きく掲示されている。来年度の目標は、介護する側の原点に立ち返り、入居者からのサインを見逃さないことを基本に、分かり易く覚えやすい目標を作成しており、正にホーム独自の手作りの理念であると、感じた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の回覧や運営推進会議を活用させていただき、地域の行事など参加しています。	町内会長や民生委員と連絡を密にし、市や地域の催し物に入居者の参加が可能か打診することで、できる限り地域とのかかわりを持ち、地域とホームの垣根を取り払うよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通じ、町内会長をはじめとした委員の方々に理解をいただき、日々の様子や食事風景などを見ていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、意見や情報の交換を行なっています。講習会も行なわれたりと、スタッフの向上に活かしています。	地域包括支援センターの協力を得、11月に初心者向けの成年後見制度に関する研修を隣接のグループホームと共に実施している。運営推進会議を通じ、町内の住民が参加できるよう協力を仰ぎ、運営推進会議メンバーと地域住民、ホームスタッフが参加。マンネリに陥ることなく、常に地域におけるホームの役割を意識し続けていることが、この事例からも感じられる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当の方には、相談や指導を頂いています。	介護認定の件で、ホームのケアマネージャーは市の担当者と連絡を密にしている。包括支援センターのメンバーは交代で運営推進会議に参加しており、その協力を得、12月1日には、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の診断、治療、予防、症状とその対応方法、接する際の心構え、家族の気持ち、サポーターの役割等について、スタッフが再確認する機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、内部の勉強会を行ったりして、スタッフの理解を深めています。ご家族には身体拘束の説明と同意書にてご理解を頂いております。スタッフは毎月ケアカンファレンスを行い、身体拘束の解除に向けて進めていることを周知・理解しています。	現在、漏便回数の多い入居者に対して、やむを得ず夜間介護服を着用している事例があるが、きちんと家族に説明し同意を頂き、毎月話し合い、行っていることが確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、スタッフと勉強会を行い理解を深めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括主催の勉強会を開いていただき、職員が研修参加をして理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族に説明し、同意を得ています。一部は家族に渡しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。年一回家族へのアンケートや施設にスタッフの写真などを掲示しています。毎月「音符だより」を発行したりと、話しやすい環境や信頼関係を大事にしています。	家族は本人やホームの存在をどのように捉えているのかをいつも気にかけており、認知症に対する家族の理解促進を図りたいとの強い思いが感じられる。認知症である本人に対する家族とスタッフの距離を縮めることや、地域の認知症に対する啓蒙も、ホームの大きな役割であることを常に自覚していることが伺える。	来年度は、家族向けに認知症サポーター養成研修を開催し、認知症に対する理解促進に取り組みたいとのこと。その実現に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、ミーティングを開催しています。	前回の外部評価結果を踏まえ、スタッフに今後個別面談を実施したい旨を伝えましたが、普段オープンに何でも話し合っており、個別というスタイルがむしろ緊張を助長する傾向が強く、あえて実施を急がなかった。習慣化させることで、緊張感が軽減し、多様なニーズを整理し必要に応じ、会社として共有し、対応するきっかけにつなげたいとのこと。	スタッフとの個別面談を来年度には、実施したいと模索中とのこと。ホームなりの個別面談の実現に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務権限規定の整備・交付金の申請における支給・研修参加にて充実する事を図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の充実を図り、資格取得のバックアップなどの向上心を育てる環境づくりを心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会、秋田市認知症グループホーム協会の会員でもあり、研修参加や施設交流訪問などにより学ぶ機会を心掛けています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の訪問面談や見学・体験などの時間を経て、ご家族様やご本人様の理解や納得していただくように心掛けています。「暮らしの情報」「バックグラウンドアセスメント」などを活用しご本人様との距離を縮められるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様を含め時間を掛けて理解していただく機会を作っています。事前に訪問面談や見学・体験などの時間を経て、ご家族様の状況を理解・考慮するように努めています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の自立支援をしながら、一緒に楽しむ時間を作ったり、人生の先輩としての知恵などを教えていただく環境を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とご本人様との絆を大切にさせていただくために、ゆっくりとお部屋で過ごしていただける環境を作っている事と、ご本人様の日々の様子や家族の話題など伝えています。ご家族との外出の機会を作っております。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人・親戚の方々の面会などの際は、お茶を飲みながらゆっくりと会話を楽めるような環境づくりをこころがけています。	毎月の利用料の支払いはあえてホームに持参するようにし、顔を合わせる機会につなげている。地元土崎の入居者が約半数であり、買い物や散歩で挨拶を交わすことも多い。自家用車で墓参りに行けるよう、前もって家族と連絡を取り合っている。兄弟や叔母、姪が家族を連れて訪れる事例も確認できた。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんが楽しむことが出来るように、スタッフが状況を把握し支援や対応をしています		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退居の時などその後の相談・支援をしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いや訴えに十分耳を傾け、スタッフ同士検討し合い添えるように努力しています。	思いや意向を入居者本人が自ら伝えることは苦手なので、本人からのサインを見逃さず把握するよう努めている。家族の面会時には、生活状況の報告がてら、小さなことでも互いに情報を交換し、スタッフが共有し、ホームでの生活に反映できるよう取り組んでいる。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面談や情報などスタッフ全員で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事を把握し、一人一人の状態に応じて支援に努めています。生活歴や暮らしの情報をスタッフで共有し検討します。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のケアカンファレンスに基づき検討・見直しを行なっています。モニタリングも活用しています。	スタッフ個々の気づきをケアプランの見直しの際に、記入できる(継続・見直し・追加等)記入欄を設け、全スタッフが書き込むことで、毎月のケアカンファレンスで共有し、プランに反映できるよう工夫している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と申し送りの徹底を行なっています。月に一度、ケアカンファレンスを行なっています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の生活歴を把握し、共有し、生活環境や家族環境を充実できるように支援いたします。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関で受診して対応しています。相談できるかかりつけの薬局があります。	個々のかかりつけ医に引き続き受診している。受診はホーム側で付き添うが、医師からの指示など必要に応じ家族に立ち会ってもらおうとすることもある。最低でも年に1回は、家族に受診に立ち会ってもらうことで、家族の理解につなげている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は日々の健康状態の変化等を報告して、指導・相談できる体制にあります。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院・家族と情報を共有し、面会時には情報交換に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本指針のもと、入居者様一人一人の状態に合わせた指針を作成し、チームで取り組んでいきます。事業所で出来る事を説明や勉強会をする事により、方針を共有して支援します。	「入居者が重度化した場合の対応」を基に、入居契約時に家族に説明し、同意を得ている。現在ホームとして初めての看取りに取り組んでおり、法人内の看取りに関する研修が予定されているが、実際に対象者が存在することで、更なる研修成果を期待しているとのこと。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などを行い、緊急時のマニュアルを作成する事で全ての職員が把握するように努めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いも含めて、年2回の避難訓練を実施しています。緊急時マニュアルの作成。地域の訓練への参加。町内の役員の方々と災害対策を確認し、協力体制の一覧表の作成・構築する。	町内から案内のあった秋田市主催の防災訓練に入居者と共に参加し、地域住民から避難場所である高台の小学校まで、ブロック塀の倒れる危険性がなく、万が一倒れていても誰かが気づいて助けてくれる最も安全な避難路のアドバイスを受けることができました。町内会長や民生委員と密に連絡を取り合い、入居者の歩行状態でも参加が可能かの是非を何度も検討した結果、小学校の3階までの避難経路を実現した事がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修に参加をしたり、ミーティングでの勉強会を行いスタッフの理解を深めています。	入居前の生活や育った環境や時代を考慮し、毎朝の自分の洗濯物たたみと部屋の掃除は、その人なりに無理強いせず行えるよう支援している。機嫌の悪いときは逆なでしないよう、配慮しているとのこと。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思を汲み取り、自己決定の支援に心掛けています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで過ごせるように、環境づくりに心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望を重視して支援しています。床屋・美容院は2ヶ月に一度行っています。特に女性の着替えなどは、ご本人様の希望を聞きながら支援しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	モヤシのひげとり、煮干の頭とり、お茶のパック詰めなど食事作りに参加する機会を作っています。	60代の女性スタッフが作る食事は、かやきやしよつる鍋もお手の物で、入居者世代の好みの味で自慢できると自負する。魚の骨とり等必要な前処理は個々に応じて対応しているが、入居者の箸の扱いの上手さには脱帽、実に上手とのことで、カレーライスをあえて箸で食べる方もいるほど。すくいやすいよう食器も個別に工夫している。当日、家族からハタハタの差し入れがあり、早速メニュー変更をし、今晚はハタハタ鍋。毎食どれか一品の塩分濃度測定を実施しており、結果分析につなげようと試みている。当日は、ホーム手作りの干し柿も確認できた。	秋田市や包括支援センター等の関係機関に相談し、栄養指導を受けられる機会の確保を模索したいとのこと。その取り組みに期待します。
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを個々に記録しています。個々の状態に応じて食事形態を考えたり、器や味など心掛けています。塩分の取りすぎにならないようにチェックしています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行なっています。個々の状態を把握し支援しています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックを記録しています。排泄パターンの把握。定期的な誘導を行なっています。	排泄の自立に向け、個々の心身の状態に合わせた支援ができるよう、バイタル・服薬・入浴・食事・口腔ケア・着替え・清拭・整容・特記の項目で構成され、マーク方式で出来るだけ簡単に記載できるよう工夫された「バイタルチェック表」を採用している。押し付けずに声掛けできるようタイミングを計ることを大切に日々の支援に取り組んでいる。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や排便のパターンのチェック。主治医への相談などを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望や受診の前など随時対応しています。	毎日入浴を実施しており、汚れた場合や通院日に合わせた入浴が優先されるが、最低でも1人が週に3回は入浴できるよう配慮している。入りたがらない場合は、無理強いせず、あの手この手で試行錯誤し入浴できるよう支援しているが、それでも気が進まない場合は、バイタルチェック表に記入して引き継ぐとのこと。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は午睡されています。疲れた様子のときなどは居室に戻られ休まれております。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録のファイルに綴り、スタッフが情報を共有しています。変更などの場合は申し送り等にて必ず周知しています。薬は鍵付きの棚にて保管・管理しています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみや趣味を把握し、出来る事をしていただき、役割を持って生活できる様に支援しています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出レクを実施しています。本人の体調や希望にて散歩や買い物などの外出も心掛けています。ご家族との夕食や旅行など一人一人の家族環境に応じて支援しています。	同系列である近隣のグループホームと車を共有しており、天王の果樹園、国華園への花見、梨狩り、ぶどう狩り、菜の花ロード、ブルーメッセ等々ヘッドライプがてら出かけていることが、音符だよりの笑顔の写真で確認できた。自衛隊前の桜並木はホームのすぐ近くで散歩コースとのこと。不穩時には近くのセリオンへ誘い、海を見たり、植物園へ行っており、セリオンの存在には感謝しているとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はホームで管理しています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をしたい時や電話の取次ぎ・手紙の読みなどその都度対応しています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように心がけ、スタッフと入居者様が毎月の季節に合わせて作品を作っています。	深夜電力を活用した蓄熱暖房を採用しており、ホームのあちこちからほのかな温風を感じた。年齢のせいかな寒がりの方が多く、スタッフは暑がるが、入居者に合わせた暖房を心掛けているとのこと。毎月当番制で季節に合わせたちぎり絵等を入居者と共に制作しており、掲示されていた。不快な臭い等は一切感じられない。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓にて皆さんと過ごしたり、居室で他の方々と会話を楽しまれたりと環境づくりに心掛けています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様・ご本人様と話し合いながら、馴染みのものや好んでいる物を持ってきて頂いたり居心地のよい部屋作りを心掛けています。	各居室に入居者個々の手作りカレンダーが確認できた。絵や刺しゅう、アルバムで華やかな居室もあれば、むしろシンプルを好む方も。火を使う物以外は全て持ち込みが可能で、以前は応接セットや仏壇も存在したとのこと。棚とギャジベットは備え付けであるが、慣れ親しんだ布団がいいと使用していた入居者が、他の入居者と違うことに気づき、今ではベットを利用しているとのこと。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは一人一人の情報を共有し、入居者様の行動には目配り・気配りを忘れず、出来る事を活かせるような安全な環境で生活できる様にしています。		